

* * 2025 年 11 月改訂（第 4 版）
 * 2023 年 8 月改訂（第 3 版）

機械器具 51 医療用嘴管及び体液誘導管
 管理医療機器 短期的使用口腔咽頭チューブ 42424022

LMAクラシック

【警告】

使用方法

1. 本品は未滅菌品であるため、初回及び再使用時には必ず洗浄及び滅菌すること。
2. 本品を介して高濃度酸素を投与している場合は、本品の使用部位の近傍でレーザーメスや電気メスを原則として使用しないこと。[酸素中では突然発火したり、発火による気道熱傷等のおそれや有毒ガス発生の可能性があるため]

【禁忌・禁止】

適用対象（患者）

1. 気道内圧上昇が予想される次の患者には使用しないこと。
 [カフが引き上げられてシール不良となり、ガス漏れ、胃の膨張、換気不十分等を起こすことがあるため]
 - (1) 胸郭又は肺コンプライアンスが低い患者（肺腺腫患者等）
 - (2) 気道抵抗が高い患者
 - (3) 最大吸気圧が 20cmH₂O を上回ると予測される患者
 - 1) 医師の指示が理解不能な成人患者に使用しないこと。
 [適切に使用出来ない可能性があるため]
 - 2) 病歴聴取で回答が得られない成人患者には使用しないこと。[適切に使用出来ない可能性があるため]

併用医療機器

1. 本製品をノーマンエルポー・タイプ（コネクタ内部のガス供給用内筒が患者方向に突出した形状）のコネクタに接続しないこと。なお、詳細は【使用上の注意】の相互作用（他の医薬品・医療機器等との併用に関すること）を参照のこと。

使用方法

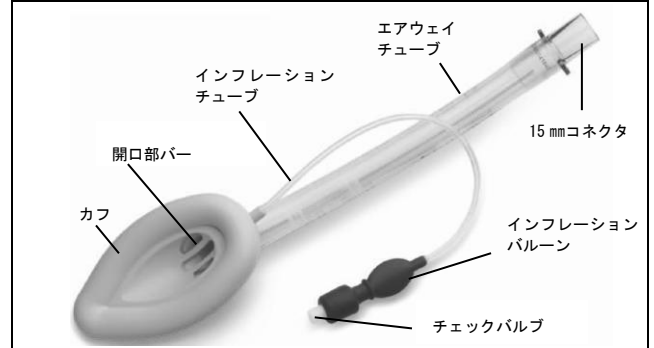
1. 挿入後のカフ内圧は 60cmH₂O（5.9kPa）以内とし、最大空気注入容量を超える空気を絶対に注入しないこと。[カフやインフレーションチューブの破損や、気管損傷のおそれがあるため]
2. 本品をオートクレーブ滅菌以外の方法で滅菌しないこと。
 [残留物質が本品に吸収される可能性があるため]

【形状・構造及び原理等】

1. 形状及び構造

本品は、主要部品であるエアウェイチューブ、カフ及びインフレーションチューブから構成される。カフは、インフレーションチューブを経由して送られる空気により膨張する。エアウェイチューブはカフとバックプレートにより形成される内腔と外部の呼吸回路等を接続するためのチューブであり、近位端に呼吸回路と接続する 15mm コネクタが設けられる。

・各部の名称



2. 原材料

構成品名称	原材料
カフ	シリコーン
インフレーションチューブ	シリコーン
エアウェイチューブ	シリコーン
15mm コネクタ	ポリスルホン
インフレーションバルーン	シリコーン
チェックバルブ	ポリプロピレン

※構成品は全てラテックスフリー

原理

本品の構成部品は、柔軟なシリコーンゴム等により形成されており、カフは空気の注入及び脱気により膨張及び収縮する構造である。

カフを収縮させ、口腔よりカフとバックプレートにより形成される腔が喉頭側に位置する向きに挿入する。

カフ近位端が下咽頭部に到達後、チェックバルブに汎用のシリンジ等を接続して、カフを膨張させることにより、カフ及びバックプレートが咽頭部周囲の組織に密着して気道の開閉性を維持する。

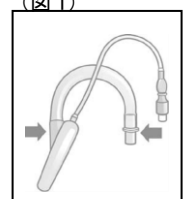
【使用目的又は効果】

口腔から下咽頭に経口挿入し、気道の開閉性を維持することを目的としたチューブである。

【使用方法等】

1. 使用前点検 1：目視的検査

- (1) チューブが透明であるかどうかを点検する。チューブは経年及び繰り返し使用によって徐々に変色する。チューブ内の異物、逆流物等が目視で確認できない程変色が進んだ場合には使用しないこと。
- (2) 切れ目、裂け目、傷など、表面が破損している場合は使用しないこと。カフ内側、エアウェイチューブ内部に異物による閉塞がないかどうかを点検する。微粒子があれば必ず取り除く。本品挿入後に患者が吸入するおそれがある。
- (3) 右図（図 1）の矢印部分を持ち 180 度まで曲げる。チューブがキンクした場合、本品を破棄する。
- (4) 2 本の開口部バーを点検し、破損していないことを確認する。開口部バーが破損していると、喉頭蓋によって気道が閉塞する可能性がある。
- (5) 15mm コネクタを点検する。コネクタはエアウェイチューブの外端部分にしっかりと密着していなければならない。手で



は容易にコネクタを引き抜くことができないことを確認する。ただし、コネクタの密着を損なうおそれがあるため過剰な力でひいたり、コネクタをねじ曲げたりしないこと。

2. 使用前点検 2：空気の注入・脱気

(1) シリンジをチェックバルブに接続し、カフの内側面と背面が密着して平らになるまで十分に脱気する。チェックバルブからシリンジを抜き、十分に脱気できているかどうかを点検する。脱気直後に、少しでもカフが自然に膨らむ場合は、リークが発生しているため、本品を使用してはならない。

** (2) 最大空気注入量の 1.5 倍の空気量（表 1：オーバーインフレーション容量）をカフに注入する。空気注入後カフから空気が抜けるようであれば、空気漏れしている可能性がある。空気を注入した状態でカフの左右対称性を点検する。カフに凸凹や膨隆がないことを確認する。

(表 1)

サイズ	オーバーインフレーション容量
1	6mL
1.5	10.5mL
2	15mL
2.5	21mL
3	30mL
4	45mL
5	60mL

(3) カフに最大空気注入量の 1.5 倍の空気量（オーバーインフレーション容量）を入れたまま、インフレーションバルーンを点検する。適正なバルーンの形は薄い楕円形となる。球状になるバルーンは使用しないこと。

3. 使用前の準備

(1) 使用する患者の体重等を考慮し適切なサイズを選択する。表 2 に記載されている患者の体重は目安である。臨床判断によって適切なサイズを選択すること。別のサイズの本品も予備として準備しておく。

(2) 本品の使用時には、初回も含め使用前に必ず洗浄と滅菌を行う。（方法は以下に記載）

(3) 使用前に必ず使用前点検 1、2 を実施する。

** (表 2)

サイズ	患者選択情報	最大空気注入量	最大カフ圧
1	体重 5kg 以下	4mL	60 cm H ₂ O
1.5	体重 5～10kg	7mL	
2	体重 10～20kg	10mL	
2.5	体重 20～30kg	14mL	
3	体重 30～50kg	20mL	
4	体重 50～70kg	30mL	
5	体重 70～100kg	40mL	
6	体重 100kg 以上	50mL	

4. 洗浄方法

- (1) 36～40℃で希釈した重炭酸ナトリウム水溶液（8～10% w/w）、又は Endozime®（Ruhof 社製、濃度 0.8%）を用いて目に見える異物が取り除かれるまで本体を洗浄する。
- (2) 重炭酸ナトリウム水溶液で洗浄する場合は上記のように 2 回目の新鮮な洗浄液を用意する。
- (3) 適切なサイズの柔らかな毛ブラシを使って洗う。毛ブラシを、開口部バーからバーを破損しないように注意しながら差し込み、エアウェイチューブ内に挿入し、洗浄する。
- (4) 流水でカフとチューブを十分に濯ぎ、残留物を洗い流す。洗い終わった後は目に見える異物が完全に取り除かれて

いるかどうかを注意深く点検する。

(5) 必要に応じて上記 (1) から (4) の手順を繰り返すこと。

5. 滅菌方法

(1) シリンジをチェックバルブに接続し、カフの内面と背面が密着して平らになるまでカフを完全に脱気させる。その際、シリンジ及びチェックバルブも乾いた状態であることを確認する。脱気完了後、チェックバルブからシリンジを抜く。

(2) 滅菌はオートクレーブにて行い、プレバキューム又は重力置換型プロセスのいずれかで行う。

推奨滅菌条件

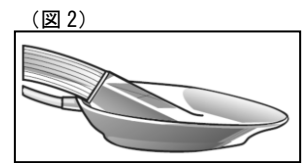
タイプ	温度	保持時間	最低乾燥時間
プレバキューム	134℃	3 分	16 分
重力置換型	132℃	10 分	1 分

(3) 滅菌終了後は、本体を室温まで冷却してから使用する。

6. 挿入

(1) 挿入前の準備

1) 本品挿入前、カフ表面にしわがなく、なめらかなスプーン型になるように完全に脱気する。（図 2）



カフはインフレーションチューブを後方にそっと引っ張りながら、脱気用シリンジのプランジャーをしっかりと引いて完全に脱気する。カフ先端を平たく整えることで、先端が上部食道括約筋に接する正しい位置への挿入が可能となり、喉頭蓋との接触も防ぐことができる。

2) 潤滑剤は乾燥しないように挿入直前にカフに塗布する。少量の潤滑剤を脱気したカフの後端に落とし、カフ背面に塗布する。カフ開口部の閉塞を防ぐため、潤滑剤は背面のみに塗布する。

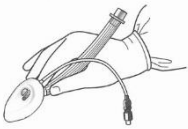
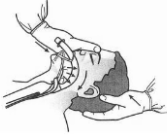

3) 潤滑剤は水溶性のものを使用すること。シリコン基材の潤滑剤は本品の部品を劣化させるため使用しないこと。リドカイン含有の潤滑剤の使用は防御反射の回復を遅らせ、アレルギー反応を誘発し、声帯を含む周辺組織に影響を及ぼす可能性があるため推奨しない。

(2) 挿入方法

本品を正しい位置に留置するために、カフ先端部分が喉頭蓋谷又は声門裂に進入したり、喉頭蓋や披裂軟骨に接触して捕捉されないようにする。そのためカフ先端は、常に咽頭後壁に押し当てながら挿入する。完全にカフを脱気すると浅い窪みを形成し、薄く柔らかなシャベルのようになる。（図 2）挿入時にカフを口蓋に押し当てながら後壁に沿わせると、カフの窪みが平らになり、前方組織に接触するのを回避することができる。これを可能にするために、挿入した指、又は親指でエアウェイチューブを上向き（頭側方）に押し当てながら挿入する。指は嚥下反射を感じるセンサーの役目をする。挿入時に嚥下反射があった場合、麻酔深度が不十分であることを意味している。浅い深度で挿入を試みるよりは、深い麻酔の導入が望ましい。使用経験の少ない使用者は麻酔深度を深めに設定することを推奨する。最適な頭位は、通常の気管挿管時にとる「スニフティング・ポジション」であり、頭部を伸展させ頭部を屈曲させる。患者をこの体位にするには、本品挿入時に、利き手ではない方の手で頭を背後から押す。頭部を屈曲させておくために枕を使用することもできる。いかなる時も過剰な力をかけないこと。

推奨する挿入方法は、以下に記載する標準手技と親指を使用した手技の 2 種類がある。

標準手技

1	本品を図のように把持する。	
2	頭を伸ばして、首を屈曲させる。直視下でカフの先端部分を硬口蓋に押し当てる。	
3	本品の口腔への挿入を容易にするため、顎を中指で押し下げる。	
4	本品を人差指で、硬口蓋及び軟口蓋に沿って頭蓋方向へ押し込む。	
5	下咽頭のはっきりと抵抗が感じられるところまで、チューブを指で押し進める。	
6	人差指を引き抜く間は、もう片方の手で本品が抜けてこないように頭蓋方向へ押し続ける。	
7	本品に空気を注入する際は、チューブは把持せず、適切なシール性が得られる約60cmH ₂ Oのカフ内圧まで注入する。	

7. 空気注入とポジショニング

- (1) ベストシール圧までカフ内へ空気を注入する。(一般的なカフ内圧：約 60cmH₂O) 多くの場合、最大注入空気量の半分で十分なシールを得ることができる。
- (2) 肺にゆっくりと送気し、本品が正しく位置していることを確認する。
- (3) 送気する際に障害があった場合は、本品を抜去し、再度挿入する。



8. 使用後

使用後は、適切に洗浄及び滅菌する。洗浄、滅菌方法は【使用方法等】 4. 洗浄方法、5. 滅菌方法を参照。
 使用後は、適切に洗浄及び滅菌することにより、40 回まで繰り返し使用可能である。ただし、使用前の性能試験において破損・劣化が確認された場合は、使用回数が 40 回に満たない場合であっても適切に廃棄すること。

使用方法等に関連する使用上の注意

1. 使用後すぐに汚染の痕跡を全て取り除くこと。その際に固定剤やお湯 (>40°C) は使用しないこと。
2. チェックバルブは洗浄液にさらさないこと。[初期故障の原因となる疑いがあるため]
3. シリンジを接続するチェックバルブには、洗浄液が付着しないようにすること。[洗浄液付着により、バルブが早期に故障するおそれがあるため] チェックバルブに洗浄液が侵入した場合、流水で洗い流す。余分な水分を除去し乾燥させること。バルブ内の残留水分は、タオルに軽く叩きつけて、余分な水分を除去すること。
4. 推奨洗浄剤/洗剤が利用できない場合は、中性洗剤又は酵素洗剤を洗剤の製造元の使用説明書に従って適切に希釈すること。
- * 5. 自動洗浄手順は、以下の機器で検証されている。
 ウォッシャー：Miele Type G7735 CD、Miele 標準ラック
 リンスポート付
 洗浄剤：Deconex® PowerZyme (Borer Chemie 社製)
6. 洗剤は皮膚や粘膜の刺激物が含まれていないものを使用すること。

親指使用手技

1	親指を使った挿入方法。	
2	指を伸ばし、親指を咽頭後壁に沿って押す。	
3	親指が伸びきるまで押し進める。	
4	親指を引き抜く間は、もう片方の手で本品が抜けてこないように頭蓋方向へ押し続ける。	
5	本品に空気を注入する際は、チューブは把持せず、適切なシール性が得られる約60cmH ₂ Oのカフ内圧まで注入する。	

- * * 7. 本品を洗浄、滅菌するのに殺菌剤、消毒剤又は化学薬剤(グルタルアルデヒド(例：Cidex®)、エチレンオキシド(E0)、フェノール基材の洗剤、ヨウ素含有洗剤、第4級アンモニウム化合物等)などの化学薬品を使用しないこと。上記の物質にさらされた本品は決して使用しないこと。[本品が上記の物質を吸収して患者に重度の組織の熱傷をもたらす、本品を劣化させる可能性があるため]
8. カフを完全に脱気させること。[カフ内に空気又は水分が残留していると膨張し、カフ又はインフレーションバルブに修復不可能な破損(裂け目)が生じるため]
9. シリンジをチェックバルブに入れる時に過剰な力をかけないようにすること。
10. カフを脱気してシリンジを抜いた直後にカフが自然に膨らむ場合には、オートクレーブ滅菌や再使用しないこと。この現象は本品に欠陥があることを示している。ただし、シリコーンゴムはガス透過性であるため、数時間かけて徐々にカフが膨らむのは正常である。
11. オートクレーブの温度が 134°C を超えないこと。[本品の材質に悪影響を及ぼす可能性があるため]
- * * 12. 本品の取り扱いには十分注意すること。本品はシリコーン製であり、破れたり穴が開く可能性がある。鋭利なものや先端の尖ったものとの接触を避けること。

【使用上の注意】

使用注意（次の患者には慎重に適用すること）

1. 非絶食患者又は絶食未確認で胃内容物が残存している可能性のある患者
 2. 症候性裂孔ヘルニアの患者
 3. 病的肥満の患者
 4. 妊娠 14 週以降
 5. 複数又は重篤な外傷がある患者
 6. 多発又は多量の外傷のある患者
 7. 急性の腹部又は胸部外傷の患者
 8. 胃排出遅延のおそれのある患者
 9. 絶食前にオピオイドを投与された患者
 10. 小児では、解剖学的理由により、陽圧で換気を行うと、胃に空気が入りやすくなるため、小児に使用する際は十分に注意すること。
- * * 11. 下咽頭を含む頸部に放射線治療を受けた患者[外傷のリスク・効果的にシールができない可能性、気道内の内容物による詰まりや気道閉塞などの有害事象が生じる可能性があるため]
- * * 12. 急性閉塞やイレウスのような病態により大量の逆流リスクを伴う緊急手術のために来院した患者[気道内の内容物による詰まりや気道閉塞などの有害事象が生じる可能性があるため]
- * * 13. 腐食性物質を摂取した患者[気道内の内容物による詰まりや気道閉塞などの有害事象が生じる可能性があるため]

重要な基本的注意

1. 患者を前酸化し、標準的な方法でモニタリングすること。
 2. 繰り返し使用が 40 回に満たない場合であっても、使用前の使用前点検で、1 つでも不適合な項目がある場合は使用しないこと。
 3. 挿入時には無理な力を加えないこと。[エアウェイチューブ及びインフレーションラインがキックにより狭窄する可能性があるため]
 4. 空気を注入、排出する際は、バルブにシリンジ等の先端をしっかり押し込むこと。[シリンジ等の先端が浅い挿入では、空気を注入、排出できないことがあるため]
 5. 本品を留置した後に患者体位の変換を行うと、シール性を失う場合があるため、十分に注意すること。
 6. 呼吸回路等との接続は、しっかりと接続されていることを使用前に確認し、使用中は漏れがないことを定期的に確認すること。
 7. カフから脱気できない事態が発生した場合には、インフレーションチューブを切断して脱気し、十分注意して除去すること。
 8. 交差感染を予防するため、各医療施設内での指針に従い適切な処置を行うこと。
- * * 9. 本品は、非臨床試験において、条件付きで MRI に対応することが実証されている。本品を使用する患者は、留置直後、以下の条件下で安全に MRI 撮像を行なうことができる。

※ MRI 撮像の条件

- * * (1) 1.5 テスラ及び 3 テスラの静磁場
- * * (2) 1,000-Gauss/cm (10T/m) 以下の最大空間勾配磁場
- * * (3) 60 分間の連続 RF 曝露（パルスシーケンスごと、又は中断のない連続シーケンス/シリーズ）で全身平均 SAR は 2-W/kg

※MRI に関連する温度上昇

- * * 通常動作モード（全身平均 SAR 2W/kg）において、本品は 15 分継続してスキャンした場合、最大 1.6℃の温度上昇がみこまれる。
- [自己認証による]

相互作用（他の医薬品・医療機器等との併用に関すること）

* * 1. 併用禁忌（併用しないこと）

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ノーマンエルボー・タイプ（コネクタ内部のガス供給用内筒が患者方向に突出した形状）のコネクタを有する医療機器	本製品と接続しないこと。	本製品を閉塞させ、肺の過膨張や換気不能を発生させるおそれがある。

* * 2. 併用注意（併用に注意すること）

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
レーザー治療器 電気手術器	本品を介して高濃度酸素を投与している場合は、本品の使用部位の近傍でレーザー治療器（レーザーメス）や電気手術器（電気メス）を原則として使用しないこと。	酸素中でレーザー治療器（レーザーメス）・電気手術器（電気メス）を使用すると、突然発火したり、発火による気道熱傷等のおそれや有毒ガス発生可能性がある。
高気圧酸素治療装置	カフの収縮・膨張に注意すること。	吸気のリークや気管損傷のおそれがある。

不具合・有害事象

その他の有害事象

気道外傷、嚥下障害、喉の痛み、発声障害、喉頭痙攣、閉塞、喘鳴、気管支痙攣、嘔声、悪心及び嘔吐、逆流、誤嚥、胃膨満、患者の不耐性（咳、口、唇、また舌の損傷など）などがある。

【保管方法及び有効期間等】

保管の条件

水漏れに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて室温で保存する。

使用期間

繰り返し使用 40 回まで。ただし、使用前点検で異常がない場合に限る。

【保守・点検に係る事項】

本品の使用時には、初回使用及び再使用前に必ず洗浄、滅菌及び使用前点検を行うこと。使用前点検及び洗浄、滅菌の方法は【使用方法等】1. 使用前点検 1：目視的検査、2. 使用前点検 2：空気の注入・脱気、4. 洗浄方法、5. 滅菌方法を参照のこと。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

選任製造販売業者

泉工医科工業株式会社

外国特例認証取得者

テレフレックス メディカル社

(Teleflex Medical)

国名：アイルランド

* 製造業者

ラリンジアルマスク カンパニー (エム) 社

(The Laryngeal Mask Company (M)

Sdn Bhd)

国名：マレーシア

お問合せ先

泉工医科工業株式会社 商品企画本部

* * TEL 03-4283-1005

* * URL <https://www.mera.co.jp/>